

九段中等教育学校に入学を希望する皆様へ

**保護者の皆様と新入生からのメッセージ
～学校選択アンケートから～**

**令和2年度
千代田区立九段中等教育学校**

目 次

令和2年度入学 17回生	
保護者対象学校選択アンケート集計結果	2
新入生アンケート集計結果	4
保護者の皆様からのメッセージ	
区分 A	7
区分 B	14
新入生からのメッセージ	25

令和2年度入学 17回生
保護者対象学校選択アンケート集計結果
新入生アンケート集計結果

保護者対象学校選択アンケート集計結果 令和2年度入学17回生

回収159、回収率99%

＜小学校時代の学習塾や通信教育などの利用＞ (複数回答有)

	区分A80人中		区分B79人中		計159人中	
学習塾	73	91%	77	96%	150	94%
通信教育	20	25%	22	28%	42	26%
家庭教師	4	5%	2	3%	6	4%
いずれの利用もなし	3	4%	0	0%	3	2%
計	100		101		201	

＜学習塾の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A73人中		区分B77人中		計150人中	
公立中高一貫教育校対策	56	77%	63	82%	119	79%
私立校受験対策	18	25%	21	27%	39	26%
学習の機会を増やすため	9	12%	4	5%	13	9%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	83		88		171	

＜学習塾の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A73人中		区分B77人中		計150人中	
半年以内	5	7%	8	10%	13	9%
半年～1年	23	32%	13	17%	36	24%
2年	28	38%	25	32%	53	35%
3年	11	15%	27	35%	38	25%
それ以上	7	10%	7	9%	14	9%
未回答	1	1%	1	1%	2	1%
計	75		81		156	

＜通信教育の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A20人中		区分B22人中		計42人中	
公立中高一貫教育校対策	9	45%	12	55%	21	50%
私立校受験対策	0	0%	2	9%	2	5%
学習の機会を増やすため	9	45%	12	55%	21	50%
未回答	2	10%	0	0%	2	5%
計	20		26		46	

＜通信教育の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A20人中		区分B22人中		計42人中	
半年以内	1	4%	2	9%	3	7%
半年～1年	5	21%	6	27%	11	26%
2年	5	21%	2	9%	7	17%
3年	5	21%	4	18%	9	21%
それ以上	4	17%	6	27%	10	24%
未回答	0	0%	2	9%	2	4%
計	20		22		42	

＜家庭教師の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A4人中		区分B2人中		計6人中	
公立中高一貫教育校対策	0	0%	2	100%	2	33%
私立校受験対策	2	50%	0	0%	2	33%
学習の機会を増やすため	2	50%	0	0%	2	33%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	4		2		6	

＜家庭教師の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A4人中		区分B3人中		計6人中	
半年以内	0	0%	2	67%	2	33%
半年～1年	3	75%	0	0%	3	50%
2年	1	25%	0	0%	1	17%
3年	0	0%	0	0%	0	0%
それ以上	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	4		2		6	

＜模擬試験の利用＞

	区分A80人中		区分B79人中		計159人中	
公立中高一貫模試を利用した	67	84%	69	87%	136	86%
私立中模試を利用した	32	40%	35	44%	67	42%

＜本校のことを知った時期＞

	区分A80人中		区分B79人中		計159人中	
6年秋以降	0	0%	3	4%	3	2%
6年夏以前	0	0%	1	1%	1	1%
5年	4	5%	23	29%	27	17%
4年	7	9%	15	19%	22	14%
それより以前	69	86%	37	47%	106	67%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜本校の受検を決めた時期＞

	区分A80人中		区分B79人中		計159人中	
6年秋以降	7	9%	8	10%	15	9%
6年夏以前	13	16%	22	28%	35	22%
5年	29	36%	29	37%	58	36%
4年	11	14%	13	16%	24	15%
それより以前	20	25%	6	8%	26	16%
未回答	0	0%	1	1%	1	1%

＜本校の学校説明会に初めて参加した時期＞

	区分A80人中		区分B79人中		計159人中	
6年生秋以降	16	20%	10	13%	26	16%
6年生夏以前	17	21%	14	18%	31	19%
5年生	41	51%	50	63%	91	57%
4年生	1	1%	2	3%	3	2%
それ以前	1	1%	1	1%	2	1%
参加していない	4	5%	2	3%	6	4%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜参加した本校の広報行事＞		（複数回答可）			
	区分A80人中		区分B79人中		計159人中
学校説明会	73	91%	74	94%	147 92%
学校公開	45	56%	42	53%	87 55%
その他	11	14%	23	29%	34 21%
計	129		139		268

＜本校の受検を決めた理由＞		（3項目まで）			
	区分A80人中		区分B79人中		計159人中
教育方針	39	49%	41	52%	80 50%
交通の便	30	38%	20	25%	50 31%
学校周囲の環境	13	16%	10	13%	23 14%
在校生の様子	23	29%	24	30%	47 30%
偏差値	3	4%	1	1%	4 3%
施設	12	15%	24	30%	36 23%
授業の様子	2	3%	2	3%	4 3%
教職員の熱心さ	7	9%	6	8%	13 8%
共学校	9	11%	5	6%	14 9%
部活動	4	5%	7	9%	11 7%
給食があるから	7	9%	1	1%	8 5%
学習内容	13	16%	10	13%	23 14%
知人のすすめ	1	1%	2	3%	3 2%
学費	13	16%	11	14%	24 15%
キャリア教育	1	1%	6	8%	7 4%
学校行事	5	6%	8	10%	13 8%
制服	1	1%	4	5%	5 3%
本人の強い希望	33	41%	31	39%	64 40%
兄・姉が通っている	11	14%	4	5%	15 9%
英語教育	17	21%	12	15%	29 18%
大学進学実績	1	1%	0	0%	1 1%
担任の先生の勧め	0	0%	0	0%	0 0%
その他	5	6%	2	3%	7 4%

＜参加した他の学校の説明会＞		（複数回答可）			
	区分A80人中		区分B79人中		計159人中
都立白鷺高等学校附属中学校	3	4%	38	48%	41 26%
都立両国高等学校附属中学校	1	1%	27	34%	28 18%
都立富士高等学校附属中学校	0	0%	11	14%	11 7%
都立大泉高等学校附属中学校	0	0%	6	8%	6 4%
都立武蔵高等学校附属中学校	0	0%	3	4%	3 2%
都立小石川中等教育学校	7	9%	25	32%	32 20%
都立桜修館中等教育学校	0	0%	13	16%	13 8%
都立南多摩中等教育学校	0	0%	0	0%	0 0%
都立立川国際中等教育学校	0	0%	0	0%	0 0%
都立三鷹中等教育学校	0	0%	0	0%	0 0%
私立中学校	21	26%	31	39%	52 33%
国立中学校	1	1%	4	5%	5 3%
公立中学校	4	5%	2	3%	6 4%
いずれも参加せず	45	56%	9	11%	54 34%
未回答	3	4%	0	0%	3 2%
計	85		169		254

＜私立校との併願＞		（複数回答可）			
	区分A80人中		区分B79人中		計159人中
した	41	51%	63	80%	104 65%
しなかった	39	49%	16	20%	55 35%
未回答	0	0%	0	0%	0 0%

＜私立の併願校数＞		（複数回答可）			
	区分A41人中		区分B63人中		計104人中
1校	22	54%	21	33%	43 41%
2校	7	17%	17	27%	24 23%
3校	7	17%	10	16%	17 16%
4校	2	5%	10	16%	12 12%
5校以上	3	7%	4	6%	7 7%
未回答	0	0%	1	2%	1 1%

＜本校の志望順位＞		（複数回答可）			
	区分A41人中		区分B63人中		計104人中
第1希望	29	71%	60	95%	89 86%
第2希望	7	17%	2	3%	9 9%
第3希望	4	10%	0	0%	4 4%
第4希望	0	0%	0	0%	0 0%
未回答	1	2%	1	2%	2 2%

＜現時点でのお子様の進路希望＞		（複数回答可）			
	区分A80人中		区分B79人中		計159人中
国公立大学	65	81%	76	96%	141 89%
私立大学	48	60%	36	46%	84 53%
医歯薬系大学	9	11%	10	13%	19 12%
海外の大学	14	18%	10	13%	24 15%
短期大学	0	0%	0	0%	0 0%
専門学校	0	0%	2	3%	2 1%
その他	3	4%	2	3%	5 3%
計	139		136		275

新入生アンケート集計結果

令和2年度入学17回生

回収159、回収率99%

＜本校のどのイベントに参加したか＞

(複数回答可)

	区分A79人中		区分B80人中		計159人中	
九段コズミック	7	9%	8	10%	15	9%
天体観望会	7	9%	13	16%	20	13%
小学生授業体験	35	44%	38	48%	73	46%

＜都立中高一貫教育校を訪れたことがある＞

(複数回答可)

	区分A79人中		区分B80人中		計159人中	
都立白鷗高等学校附属中学校	7	9%	35	44%	42	26%
都立両国高等学校附属中学校	3	4%	27	34%	30	19%
都立富士高等学校附属中学校	0	0%	13	16%	13	8%
都立大泉高等学校附属中学校	1	1%	6	8%	7	4%
都立武蔵高等学校附属中学校	0	0%	2	3%	2	1%
都立小石川中等教育学校	8	10%	27	34%	35	22%
都立桜修館中等教育学校	1	1%	14	18%	15	9%
都立南多摩中等教育学校	0	0%	1	1%	1	1%
都立立川国際中等教育学校	0	0%	0	0%	0	0%
都立三鷹中等教育学校	0	0%	1	1%	1	1%
いずれもなし	63	80%	13	16%	76	48%

＜併願校＞

共学		男子校		女子校	
都文館中学校	6	麻布中学校	1	跡見学園中学校	2
上野学園中学校	1	足立学園中学校	2	浦和明の星女子中学校	2
浦和実業学園中学校	10	海城中学校	1	桜蔭中学校	1
浦和ルーテル学院中学校	1	学習院中学校	2	大妻中学校	1
桜美林中学校	8	慶應義塾普通部	1	大妻嵐山中学校	5
大宮開成中学校	3	京華中学校	1	学習院女子中学校	2
開智中学校	3	攻玉社中学校	2	神田学園中学校	2
開智日本橋学園中学校	10	佼成学園中学校	1	北鎌倉女子学園中学校	2
開智望中等教育学校	1	国学院大学久我山中学校 男子部	2	吉祥女子中学校	3
かえつ有明中学校	1	駒場東邦中学校	1	共立女子中学校	7
春日部共栄中学校	1	芝中学校	4	国本女子中学校	1
神奈川大学付属中学校	1	芝浦工業大学中学校	1	光塩女子学院中学校	1
駒込学園駒込中学校	12	城北中学校	2	香蘭女学校中等科	1
埼玉栄中学校	3	巣鴨中学校	6	国府台女子学院中学校	2
栄東中学校	7	高輪中学校	5	品川女子学院中学校	2
佐久長聖中学校	1	東京都市大学付属中学校	2	十文字中学校	2
芝浦工業大学柏中学校	3	日本大学豊山中学校	1	淑徳与野中学校	3
渋谷教育学園渋谷中学校	1	北嶺中学校	1	頌栄女子学院中学校	4
渋谷教育学園幕張中学校	3	本郷中学校	2	昭和女子大学付属昭和中学校	1
秀光中等教育学校	1	武蔵中学校	3	女子学院中学校	2
淑徳中学校	2	明治大学付属中野中学校	2	聖徳大学付属女子中学校	2
淑徳巣鴨中学校	3	立教池袋中学校	2	東京家政学院中学校	11
順天中学校	3	立教新座中学校	2	東京女学院中学校	2
城西大学附属城西中学校	1	早稲田大学高等学院中学部	1	豊島岡女子学園中学校	2
昭和学院中学校	1			富士見中学校	1
西武学園文理中学校	1			普連土学園中学校	2
成立学園中学校	4			山脇学園中学校	1
専修大学松戸中学校	4				
東海大学付属浦安中学校	1				
東京都市大学等々力中学校	1				
東京農業大学第一高等学校附属中学校	1				
東邦音楽大学附属東邦中学校	1				
東邦大学付属東邦中学校	2				
獨協埼玉中学校	2				
日本大学第一中学校	1				
広尾学園中学校	2				
宝仙学園中学校	4				
目黒日本大学中学校	1				
安田学園中学校	13				
龍潭中学校	3				
早稲田佐賀中学校	1				
早稲田実業学校中学校	1				
早稲田摂陵中学校	1				

令和2年度入学 17回生
保護者の皆様からのメッセージ
新入生からのメッセージ

保護者の皆様からのメッセージ

区分A

息子は自主的に勉強する方だったので、進め方を全部まかせてしまったのですが、もっと親が関わって見ておくべきだったと思いました。

学校選択や親子の意見のすり合わせなどは、早いうちから何回も話し合っておくと、慌てずに済みます。

問題の内容をよく理解して、解答にのぞむように注意しました。

小学校の授業で学ぶことをしっかり身に付けることが最も大事なのではないかと思います。

作文と過去問が鍵だと思います。

進学塾では下位のクラスでしたが、授業中の集中力は高かったと思います。本人は国語（漢字を含め）のセンスがあり、塾の先生の指導もあり、長文を書く事にプレッシャーを感じる事は無かったと思います。

過去問を解く事で、入試当日もいつもの力を発揮する事ができました。

家庭では、勉強する時間は極端に少なく、リラックスする場所として、塾とメリハリをつけて取り組んでおりました。

学習塾は、本人をただ通塾させるだけでなく、宿題や復習など保護者も一緒に学ぶ姿勢が必要だと思いました。作文はとにかく材料を見つけて、どんどん書いていく数をこなしていくことが大切だと思った。親が薦めた受検であったため本人のモチベーションを保つことが一番難しかったし、今もどのような形でモチベーションを上げたら良かったのか正解は分からないままである。

うちの息子は小3の頃に九段中の説明会に参加して、実際に校内を見学して本人が「絶対にこの学校に通いたい」と言ったことがきっかけでした。それまではこどもチャレンジをしていたのですが、すぐに都立中向けの塾を探しました。色々な塾の体験にいて、小3の2月からenaに通いました。小5くらいまでは他の習い事も通っていましたが小6からはほとんど塾1本にしました。

小6の夏くらいから親子共々、九段にむけて勉強に火がつき、朝30分から1時間の勉強、学校、塾、塾がおわってからも残って勉強、帰宅しても苦手分野を集中して勉強に取り組みました。小6の塾のテスト、九段中の模試テストでは詳細がでるため、満点をとれた分野、凡ミスしたところ、皆がとれた問題をおとした分野をチェックしてできなかったところを徹底的にやりました。うちの場合、本人が九段中に入りたいという意志が強すぎたの

でもしダメだった時、私はどういう言葉をかけ、どう接してあげれば良いかを考えてしまいました。（2／3試験後から発表までの間、母は不安でした）冬期講習くらいから試験までは、とにかく、もう勉強をしたので願うばかりでしたが合格できて本当にうれしく思っています。（2月以降から塾のテスト結果もぐんと上がり、2／3試験前一週間は学校をお休みさせてもらって過去問（九段中、その他の学校）をたくさんときました。とにかくやるだけやって、「自分はできる！！」と自信をつけさせてあげたかったからです。最後まで絶対にあきらめない、がんばれば大丈夫、そう信じてあげることが大切だと感じました。が、当日は息子の苦手分野ばかりが出題されてしまいました。ラスト1ヶ月、1週間あきらめずにがんばって本当によかったです。

本人が希望するのが一番だと思います。

普段の学校生活を大切にして、宿題を忘れず、授業では先生の話をしっかり聞き、自分の考えをきちんと発言できることが最優先かと思います。

学校説明会、夏の授業体験、九段コズミックに参加し、本人の希望で受検を決めました。習い事や活動など、本人が好きな事、やりたい事を無理のない範囲で続けました。5年生の時は公立中高一貫校対策の通信教育をしていましたが、本人の希望で5年の2月から1年間、公立中高一貫校対策の塾に通いました。授業のない日も自習に通っていました。本人の意思を大切にし、やりたい事、今しかできない体験をしながら小学校も休むことなく楽しく過ごせたと思います。

読書をあまりしない子だったので、記述や作文などがとても苦手でした。こればかりは塾でどうにかできる話ではなく、本人も苦労していました。かわりにニュース番組は受検に関係なく見ていたので、いろいろな事には興味をもって生活していました。学校選択は学校見学時に本人が決めていました。学校の立地、理科教室を生かした学習スタイルがポイントだった様です。

適性検査の勉強は適性の対策だけで合格するのは我家では難しかったので、やはり国、算、理、社の勉強も重要でした。

国語の記述の学習が重要だと思います。

高学年になる頃から中学で困る事なく学習を進められる様、受験を意識するのではなく基礎をしっかり定着出来る様にと日頃の学校での授業、テストを確実に実になる勉強を心掛けていました。5年生では英語を先取りさせる為 4技能での学習ができる塾を探しました。6年生になる春には自分から受験をしてみたいと思う様になり英語の他 4強化も塾で基礎から応用へと1年で集中的に取り組みました。土日は好きなサッカーをしながらでしたが、中学で困らない土台づくりの勉強から色々な問題を解く事が楽しくなり九段

中等教育学校に合格出来て良かったです。

公開授業 体験授業に参加すると良いと思いました。在校生のみなさんが明るくて親切、「学校が楽しい」と言っていたのが印象的でした。

初めから九段中学を第一志望と考えていましたが、私立中学も併願するつもりで、私立中学対策中心の塾に通っていました。作文など、私立中学向けとは違った対策が必要かと思ひ、通っていた塾で過去問の作文の添削をしていただいたり、本人も積極的に過去問に取り組み、出題の形式や時間配分など自分なりに考え準備したことで、当日、落ち着いて臨めたと思います。本人が「この学校に行きたい」と強く思っていたことで自主的に学習できたことも良かったと思います。

集中力を高めるためリビングで勉強させました。

2つ上の長女も通っていますが、学習方法がそれぞれ好みが異なり、それぞれに合ったやり方を模索して進めたことが合格につながったと感じます。

受検は長期戦で何より当日にベストコンディションで迎えられるよう規則正しい生活と免疫力のある健康な体づくりがとても大切だと思います。

上の子が九段に通っていますが、受検前に通塾したのが公立中高一貫向けの塾であったため、入学してからの勉強、特に社会と理科で苦勞しました。そのため、下の子は私立向けの4教科学校クラスに通わせ、6年の冬休みから九段対策として過去問と記述をやらせました。それで充分だったとは思いますが、結果的に理科と社会を勉強していたことで、グラフや表の分析力は身につけていたと思います。九段は記述のボリュームが多いので書くという行為を嫌がらないように気をつけました。兄弟でご縁をいただいて通わせていただきますが、英語教育は本当にすばらしくありがたいと思います。中学生のうちは色々あるとは思いますが、きちんと対応して頂けるので心の教育の場としても信頼しています。

我が家の場合、九段中が第一志望だったので適性対策のみを行い、私立向けの問題は勉強しませんでした。それは小学校生活を大切にしておしかったからです。塾に通いはじめたのも5年生から、かつ週2回のみでした。習い事もすべて続けていたので、すきま時間をできる限り使い家庭内での勉強を大切にしました。塾の定期テストの見直し、模試の見直し、特訓の見直しなど、間違えた問題は何度もやり直した事がよかったと思います。直前の1ヶ月は過去問をたくさん解きました。九段中ならではの問題への対策、答えの書き方など細かい部分への配慮が大切です。

作文が苦手だから都立をあきらめる方もいらっしゃると思いますが、作文は訓練すれば必ず上達します。作文は塾の先生より親の方が手助けになるので頑張ってください。

近年はA区分と言えども倍率が上がってきているのでそれなりの対策が必要だと感じました。私立受験対策の学習をしながら9月から公立中高一貫対策も並行して受講しましたが、基礎的な内容を修得してから適性検査型のテストに臨めたので結果として良かったのかもしれないと思いました。入学後はB区分のお友達に刺激を受けながら自分の学力を伸ばして行ってほしいと思っています。

体調管理

小学校での授業、活動を今まで通り取り組むことが大切と本人と話しました。その上で本人の希望で塾へ行きました。学校での放課後の遊びの時間、塾、塾での自習など自分で時間を見ながらやっていたと思います。6年生は忙しくなり、体調が心配でした。体も心も健康に過ごし受験を迎えることができたことが良かったと思います。

お子様が適性検査に順応できるか見極めること。模試は九段の試験とはまた違うものなので結果はあまり気にせず過去問を解くことが大事だと思います。まじめにコツコツ勉強できればZ会の通信教育だけでも十分に力がつくと思います。

受験対策として通塾しましたが、学校の勉強も行事もおろそかにしないことが家のルールでした。普段から疑問に思ったことはその場で調べるようにしたり、朝のニュースを見たり、朝日小学生新聞を読んだりしていました。6年夏休みの自由研究で、小学生新聞の記事を切り取り、気になる話題を調べまとめたのですが、適性検査で琵琶湖の全循環が出題され、本人がまとめた記事の内容と一致したこともあり、今までやってきたことで何も無駄なことはなかったと受験を終えて言った息子の言葉が忘れられません。色々な場面で口出ししたくなることもありましたが、食生活、健康面を整え見守ることに徹したことで本人の力ややる気を潰すことにならずに済んだと思っています。

4年から私立向けの学習を進め、6年4月から受験対策として、作文を通信教育で、9月から九段の過去問対策を始めました。並行して公立中高一貫向けの模試を受けていましたが、なかなか点数があがらず、違いに苦戦をしていたようですが、12月ごろに勘どころを掴んだようで、安定して点が取れるようになりました。本人は受験直前まで、自分の弱点を中心にしっかり勉強に取り組んでいました。差後まであきらめず、取り組んだ事が合格につながったのではと考えています。

私は、小学校の行事や係活動等が大事だと思いました。その中で悩むことがあったり、達成感を味わったり、子供にとって良い経験となるからです。日常生活を充実させながら、受験勉強に取りくむことをおすすめしたいと思います。

小5から作文を書くようにし、文章に慣れる様にしました。

小学校生活を大切にし、習い事もぎりぎりまで続け、本人のストレスをかけず環境を変えない様にしていました。最終的には勉強は自分で進めて任せきりでした。

子供は宇宙好きなので、九段の天体観望会に連れて行ったら説明が上手な生徒さんにあこがれ、それで九段を受検すると決めました。5年生から千代田区に転入できたので、実際、受検の学習を始めたのは5年生の秋からと遅めのスタートとなりました。6年の春までは4教科の学習の底上げをし、それ以降は読解力の向上に努めました。両親共働きだったので、サポートできることは限られていましたが、本人のやる気を持続させるために無理はさせない事と、スケジュール管理はきちんとやりました。

受検準備 出題問題が多いため、時間内に文章を読み切れるよう毎日読書をし、文字に慣れることが大切だと思います。時事問題に関心を持つよう、毎日新聞と一緒に読み子供の理解を深めてあげるのがよいと思います。

私立をお考えの方は、公立も視野に入れて、早めに見学などを行った方がよいと思います。

千代田区が中学校の学校選択制をとっていること。早くから文化祭等公開行事に行くことが、志望を高める動機になると思います。

私立学校とは問題傾向が違うと思うので留意したほうが良いと思います。また、時事問題は日頃からよく注意しておくとういいます。

立地環境が大変良いので決めました。受検準備に関しましては、作文に慣れることが重要に思います。今年の問題は高速道路でのスケジューリングがありましたが、日頃から計画立て等、いろいろ子どもにさせておけばよかったと少々後悔しました。(この問題は半分くらいしか解けていませんでした)

本人が「A 枠だから合格した」と言われるのは嫌だと言い、B 枠での受検と考えて、しっかり準備しました。塾に通い、家庭学習をすることはもちろんですが、読書をし、子供新聞を読んでいました。また長文の要約を毎日行っていました。

最後まであきらめずに、学習を続けることも大切です。

試験は当日まで、あきらめずに勉強する。模擬試験等で間違えた問題はくり返し解き直し問題を解くスピードを上げる。

どれだけ九段に受かりたいと思い集中して対策を練り、日々こなしていくことに尽きると思います。

学習塾での受験準備に加えて、家族で一緒にテレビのニュースなどを観て話し合い、物事について深く考えていく習慣をつけると良いと思います。

九段中等に行きたい、と本人のやる気が高まったのが九段祭でした。勉強についてのレポートの掲示も素晴らしくまた部活の活動の様子、すべて”本当に自分で頑張っ九段生になるぞ”という意思を固める良い機会でした。最初に私立対策の学習をしていたので、出題傾向の違いなど少しつまずきを感じている時に学校見学に行けて本当に良かったです。

千代田区が主催する学習体験（ひがた探検、科学センター員など）に積極的に参加しました。机の上の勉強だけでなく、実際に体験することでより知識の定着がはかれたり好奇心を伸ばすことができたと感じています。

学校公開や説明会などに積極的に参加することをおすすめします。娘の場合、そういったものに参加するたびに「九段中入学の強い希望」が増していき、受験勉強への強いモチベーションになったと思います。

私立受験のための塾通いは子どもの負担が大きく、公立一貫のための勉強であれば結果にかかわらず本人のためになるだろうと思い、公立一貫のみの受験としました。なかでも九段中等の問題は奇をてらったものがない印象で、学校での授業を真面目に受けることを基本にできそうと判断して受験させることにしました。記述する力だけは塾で教わらないと対応できず、本人も話すことは得意ですが、書くことには慣れておらず、夏までは全く書けず、最後まで苦労していました。塾通いは夏まで週1、秋から週2と一般的な受験生と比べるとかなり少なかったですが、親としては睡眠時間を削らないようにそして食事をしっかりとるように気を付け、学校の授業を第一にするように常に言っていました。

本人の意思が大事だと思いました。周りがどんなにやらせようとしても本人がやる気がなければ続かないと感じました。親のできる事は健康管理だけでした。

本人の気持ちを聴き、話し合うことを念頭に置いて子育てをしてきました。結果、6年生の夏に受験をしたいと言い出してから半年程度で合格をいただくことができました。受験は本人の決意があって初めてがんばれることだと思います。なので「やらされ感」なく勉強を楽しくできるよう時には親も一緒に模試や過去問に取り組みました。一緒に進路やテスト問題を考えた時間は家族にとってかけがえのない時間になると思います。どうか親御さんも楽しんでください。

適性検査の練習はとにかくたくさんの方がよい。希望していなくても2/1か2/2に同じような適性検査型の私立を受けたほうがよい。本当に緊張するので、慣れておく必要を感じた。

他校を考えず早く九段のみの勉強をすることで小学生らしい生活（スポーツなど習い事の制限をしない）を送らせる。

学校公開への参加、行事の見学などで生徒さんたちの様子を見て本人にやる気をもたせること、模試の結果に左右されるのではなく、日々のニュースや出来事に関心をもつことを重視されるのがよいと思います。

適性検査という学科試験とは違う傾向の対策は絶対必要だと思います。本を読む習慣は長文を読解する上でとても役に立ちました。

4年生から始めたクラブ活動に熱心に取り組んでいたため、受検勉強と両立させてあげたいと思っていました。そのため、5年生から時間の融通がきく個別指導のある学習塾で、苦手な算数を対策するところから始めました。6年生からは作文力を上げるため、国語の授業も追加しましたが、模試の結果は思うようには出ませんでした。12月頃になり、やっと本人もエンジンがかかったのか、時間を見つけて自発的に課題に取り組むようになると結果も伴いました。受検前の一か月は本当によく伸びたと思います。

適性検査を慣れて行く必要ですので、学習塾の指導が効果があると考えております。

合格したいという本人の強い意志はもちろんの事、年末から直前までの一か月は特に集中して勉強できるように家族が気を遣いました。

区分B

6年生の11月までクラブ活動を行っていたため、本格的な受験勉強ができる期間は3ヶ月しかなかったため、九段の過去問題と他の公立中高一貫校の過去問題中心に勉強しました。特に適1や記述問題が苦手だったため、学習塾の先生と相談し、様々なテーマでの作文を行い、添削したものを再度書き直すということを徹底しました。

ギリギリまで大好きなクラブ活動を行ったおかげで、受験勉強への瞬間的な切りかえと、集中してやりぬく根性がついたのだと思っています。

学校説明会や九段祭に行き、生徒さんたちとお話しさせていただき、生き生きと対応してくださりました。こんな風に学校生活を息子にも送って欲しいと思いました。

親子共に納得のいく学校を選ぶことが出来たらいいと思います。

小さい頃から生き物観察や工作・実験・農業などの体験講座やイベントに参加したり、博物館や科学館に行ったりして、親子で「本物を体験する」ことを楽しんでできました。そのせいか、ジャンル問わず自然科学から芸術分野まで、いろいろなことに興味を持っていました。読書も元々好きでこちらもジャンルを問わずいろいろな本を読んでいました。適性検査の問題はおもしろいと言って解いていました。(本番の試験も面白かったと言っていました。)

塾は5年の冬から地元の個別塾に通いました。ここで、自分の頭で考え、解法まで説明できるようにすることと記述の力がつくよう指導していただきました。

何よりも、小学校の授業や活動を一番大切にし、習い事もやめずに、お友達とも遊び、あまり受験一色にならなかったことは、本人のペースに合っていたのかもしれませんが。親としては、あまりのマイペースぶりや、上下する模試の結果にやきもきし、焦ったりもしましたが、体調や生活リズムを整えることに注力し、最後は本人の「九段に入学するんだ」という気持ちを信じ応援しました。

なるべく早い段階で計画をたててお子様とよく会話し、親子で受験に挑む認識を持つことが重要だと感じています。また、受験自体が期間の長いものになるのでモチベーションを保ち続ける為に、志望校に行く理由や通いはじめた後にやりたいことなどイメージを何度もたしかめることを徹底しました。

子供に合った対策方法を見極め、やらされるのではなく、自分で取り組めるように、親がサポートしていくことが大切だと思います。生活のリズムを変えずに、スポーツなど適度に気分転換を行いながら、本番までを乗り切ってください。本番にどのような問題が出るか親子で予想して楽しめるぐらいになればよいと思います。

幾度も躓き、失敗をくり返しながらどうにか進んできた受験までの道程でしたが、息子は最後の最後まで諦めずに勉強を続け、無事合格することができました。

合格をいただけたのは、そうした子どものがんばりの結果であることはもちろんなのですが、受検するしないに関わらず日頃から家や学校での生活を充実させること、そのために家族が寄り添い、支え合っている、ということがとても重要なのではないかと、この度の受検をそのように振り返っております。

九段中等教育学校を知るきっかけは、友人からの情報でした。学校説明会に参加させていただき、教育方針や、施設設備の充実、また、在校生の方々の様子を見て、ここの学校しかない！ と思いました。他の学校見学に行っても魅力を感じず、九段合格に向けて毎日コツコツと勉強に励んでいました。塾で与えられる課題をしっかりとこなす事はもちろんですが、塾だけではなく、学校での勉強や学習以外の活動、友達との関わり等、小学校生活の充実もとても大切だと思います。だからこそ、心のバランスが取れて、集中して勉強に打ち込むことができたのだと思います。勉強が疲れた日には、しっかりと休み、遊んで過ごす日も必要だと感じます。メリハリのある日常が豊かな感性を育み適性検査型入試にも役立てられたのではないかと感じます。お子さんの気持ちを支えつつ、努力を信じて頑張ってください。

本人が日頃から興味、関心がある分野を基本に据えて学校選択を行い、最終的には本人の希望をもとに志望校を決めました。
受験準備には過去問を活用し、塾の先生とも連絡を密に取り合い、都度本人の状況を見極めつつ勉強に取り組ませるようにしました。

天体観望会や文化祭などに参加し、九段の魅力を本人が直接感じていました。それによってどうしても通いたいという気持ちが強くなったことが受検の原動力になったと思います。

志望校は早めに決めたほうがいいと思いますが、本人が本当に受検したいのか、本当にこの学校に行きたいのかはよく話し合いました。そうすることで自ら進んで勉強するようになったと思います。合格してもそれはゴールではなく、スタートだと、その先があることは何度も説明しました。
これから大変なこともあると思いますが、自分で乗り越えてほしいと思います。

ギリギリまで受検をしても無理ではないかと半分あきらめかけていたのですが、受検をしないことには合格しない！ と頑張りました。
最後まであきらめないで本当によかったです。

最終的に第一志望を九段にしたのは9月でした。九段祭で生徒の明るく楽しく学校生活を送っている様子を目の当たりにし、息子が「九段に行きたい！」と決めました。そのため本格的な対策は6年の秋になってからです。それまでは4科型の塾に通っていました。その基礎的な学習の積み重ねがベースにあったこと、さらに秋以降、適性1を中心に対策

を進めたことが合格につながったと考えています。家庭で後押しできることは、作文を一緒に考えること、過去問や模試の見直しをしっかりとみてあげることでしょうか。10月までは部活と両立しながらゲームもルールを決めながらと、根を詰めすぎずに臨んだのも精神的に良かったかもしれません。

学習塾では6年生になると適性テスト向けの勉強ばかりになるので、5年生までに基礎をしっかりと勉強しておいてください。

また日々ニュースの事や日常生活のささいな事でもよいのでお子様とたくさん会話をしてボキャブラリーを増やしてあげてください。

受験準備について…新聞を読む機会を作り、それについての意見を言ったり聞いたりするという事に取り組んだ。物語でもエッセイでも説明文でもジャンルは問わず色々な本を読んだ。(これについては小さな頃からずっと取り組んでいる。)→活字を読むことによって、問題文だけではなく設問も速く読んで理解することにつながると思う。

学校選択について…本人の個性を生かしつつ、指導していった下さる雰囲気を見学時に感じました。受験する本人も「生徒さん達が楽しそうダイキイキしている」という感想を強く持ったそうです。

受験の一年前から6時に起こして生活リズムを整えるようにしました。小五の春から通塾して2年間で基礎を固め作文の対策に努めました。他の中学は眼中になく、本人の一抹で強い気持ちを持った事が合格につながったと思います。

受験準備について…現在もその傾向があらわれつつありますが、私立入試と公立中高一貫校入試はより似てくるとおもわれます。特に記述校といわれる学校の過去問は難しいものもありますが、適性検査対策に通じます。特に理社を6年生の最初もしくは5年生夏休みから始めると良いと思います。勉強という枠を超えてお子様の興味・関心が拡がり考えることが当たり前になるというのが理想ですね。(スマホ、ゲーム、youtube、Amazon Prime等は制限したほうが良いです。)

学校選択は、実際に活動している水泳部があるのでいいなと私が思い、小学生体験授業や九段コズミックに申し込みました。息子はダイナミックで楽しい実験と充実した設備にすっかり魅了され、絶対九段だと思った様です。

スポーツを続けながらの受験は時間が取れないので、小3から通信教育を1学年進めてやっていた良かったです。塾には春休み、夏休みと、9月から半年間週末2日で通いました。子供の予習の出来に合わせて解説してくれたり、個別に記述の添削をしてくれて、息子に合っていた様です。私がした事は、自習用テキストの答合わせと、時間の管理です。振り返ると、十分な準備は出来ませんでしたが、好きなことを止めずに受験して良かったと思います。本人の「この学校に行きたい」という気持ちが通じたのかなと思います。

息子は長子なので親が情報に疎く、4年生の時に公立の中高一貫校があることを知り、5年生の4月に親子一緒に合同説明会に参加し、九段受検を決めました。公立の費用で私立のように充実した学習環境が得られることと、自宅からの近さがポイントでした。それまで受検については一切考えていなかったのですが、幼い頃より市販のドリルや通信教材で自宅学習し、自ら勉強する姿勢は身に付けさせていました。

塾はこの「合格者からのメッセージ」で九段対策をしている塾があることを知り、5年生の9月から本格的に通い出しました。週4日のカリキュラムでしたが負担感はなく、楽しんで通っていたので習っている水泳教室は変わらず週2日で続けました。

一貫して九段一本に絞り、塾の課題をこなし、過去問も何度も解いていました。読書が好きなので岩波ジュニア新書などを塾や水泳の行き帰りに読んでいました。朝日小学生新聞も購読しました。日常生活やテレビで見聞きしたことを読書により得た知識と結びつけて考える力が身についたと思います。

地元の少人数（6名）の集団教育の塾で四谷大塚のテキスト、週テストを学びました。受験用塾へ転塾したのは5年生12月からです。私立向けのクラスだったため、作文・記述対策は「ブンブンどりむ」（通信教育）を用いました。また、私立併願校の過去問での記述問題が多かったこと、算数「下剋上受験」のテキストを併用し、親子で朝30分夜塾から帰宅後（21時～22時）1時間、毎日毎日努力をし続けた結果、合格をいただくことができました。12月まで少年野球を続けていたことも良い意味で気分転換になった様で、両立することを諦めず、努力を重ねて本当によかったと思っています。

塾では九段の10年分の過去問や全国の公立中高一貫校の過去問に取り組んでいたようです。

家では、学校の宿題に時間をとられ、それを見ている親としてはもっと受検勉強にとりかかってもらいたいとヤキモキすることが多かったです。

学校生活や行事も全力投球だったので、受検前に学校を休むことなく放課後も塾の時間まで学校で友達と遊び、と普段通りに生活していた事が結果として良かったのかなと思います。

受検準備については4年生から塾に通っていました。都立コースに変えたのは6年生からだだったので作文対策が大変でした。ただ、九段中学に行きたいという思いからか最後まで諦めなかったのが良い結果に繋がったと思います。

あと、家では集中できないタイプだったので塾の自習室にたくさん通いました。

私学向けの塾に通ってました。5年の時に中高一貫教育が良いと考え、転塾も視野に入れましたが、友達と離れることを嫌がり、記述アップに力を入れるようになり、本人の苦手意識も無くなりました。先生のすすめもあり記述一本の受検先をチャレンジ校にしましたが、みごとに合格し、九段受検のはずみになりました。本人が言うにはどこの塾へ行っても本人のやる気で決まるんだ！との事です。子供と共に成長した3年間でした。

受験校を決定に向け、公立中高一貫の学校をいくつも見に行きました。生徒・先生の様子、校舎の雰囲気、通学路など、何回か見ておくの良いと思います。勉強については、塾と習い事との両立を心がけ、気分転換をしながら生活リズムをつくりました。また、いろいろな教材には手を出さず、過去問・模試を含め、繰り返しの学習をしたことが、効果があったと感じます。家族中で健康・体調に気を配ることも大切でした。

適性検査に対応するには、塾の力が必要と割り切り、早目にスタートすると良いと思います。6年生は土日も塾でした。4年、5年のうちに候補の都立には説明会・公開などで訪れておくの良いと思います。子どもが最も真剣に対象校を「見つめた」のは5年の時の文化祭でした。4・5年のうちに候補を絞り、6年では3校の文化祭を体験し、自分で「やはり九段に行きたい！」と心を決めました。子ども自身に決めさせてあげるなら各校の文化祭を見せてあげることをお勧め致します。

こうすれば九段に合格できます、とは一言で言えませんが、我が家では早寝早起が基本、学校の勉強をおそろかにしない、その上で塾の宿題をしていました。第一希望校合格への強い気持ちと最期まであきらめない姿勢が大事だと思います。受検生のみなさん、頑張ってください。

学校生活（毎日の授業、宿題、行事）を一番に考え過ぎしました。毎日NHKのニュースを必ず見て、時事に関心を持つようにしました。

受検・受験当日によい点を取るためだけの勉強にはまったく意味がないと考え、まずは社会のしくみや学校で学んだことへの興味を深めるような、身につく学びを優先しました。（よりリアルな項目を軸にしました）この思いは受検直前までブレないように、親子ともに持ち続けていたと思います。例えば歴史について学ぶのも、単なる暗記ではなくて、現代の暮らしとどうつながっているのか、そのでき事によって今がどう変わってきたのか、この先、何を活かせばよいのかを子ども自身に考えさせる事です。分からないことをたずねて来た時も、まず仮説を立てて、実際に手を動かし足を運んで確かめる方法を取りました。時間はかかりますが、あとは心から学びを楽しむことです。模試や塾のテストでは「99%無理！」と言われていましたが、子どもの力をひたすらに信じ、肯定しつづけました。6年夏の公中模試はなんと100点中9点、親子ともに大笑いしましたが点数では現れないものを積んで頑張りました。塾の先生は最後まで苦笑いのみでした。

塾で勉強していると思いきや、課題をこなしていない事が判別したのが6年生の冬になってからでした。塾にまかせっきりにしていた事を猛省し、それからは残っている課題のスケジュールを作り、更に必ずやる事の優先順位を子供と共に確認し、毎晩一緒に勉強しました。指示するのではなく、一緒に頑張っている姿勢を見せた事で、反発が少なかったように思います。5年生は通信教育、6年生の前半はプラス週1日の通塾、6年生後半は通

信を止め、週2回通塾しました。

過去問は何度も解けるようになるまでやります。満点を目指します。

過去問には学校のメッセージがいっぱいついております。ぜひ、お子様のタイプと学校の求めている人物像を分析して、学校選びに役立ててください。九段中は基礎知識の固めが大事ですので、難しすぎる問題より自分のレベルにプラスちょっとの問題で力をつけるのが大事だと思います。体力づくりと早寝早起きは、本番でおちついて問題にのぞめる基本です。平素より社会のいろんなニュース等に耳をかたむける努力が必要です。受検まで小学校の授業も習い事も充実した生活を心かけました。高い倍率を目にすると気持ちが落ちつかないですが、子供の力を信じてあきらめないことが一番です。過去問は10年分を一回解き、直近の5年分を2回くりかえしました。

小学生体験授業や天体観望会はとても有意義でした。それらに参加して志望度合いが高まりました。受検を検討されている方は是非参加をおすすめします。

本人の強い意志と自覚、自己学習を計画して、学校生活と進学塾との学習を積み重ねての日々の鍛錬が必要だと思います。

適性検査の勉強は中々成果が見えにくく、点数がとれない状態が6年生の冬頃まで続きました。本人の手応え初めて得られたのは12月の模試。冬休みを経て、入試直前までの期間で一気に伸びたと思います。1月は私立受験で学校を休む人も増えますが、入試直前まで学校へ行きました。学校へ行くことで生活リズムが保たれるので、感染症対策に気を配りつつ、なるべく普段通りに過ごすことをおすすめします。

塾で勉強したことが役立った。公立対策も私立対策もどちらの勉強も九段中受検に役に立った。

受検勉強もですが、当日も楽しむ気持ちで臨むことで力を発揮できたと思います。通うのは本人なので何校か見学して本人の意見を尊重しました。

4年生から都立一貫校向けの進学塾に入りました。塾の先生が復習ノートの書き方を教えてもらい、毎回授業の後にかかさず復習ノートを書きました。合宿や模試に参加し過去問もたくさん解きました。毎日こつこつと勉強して、学校も休むことなく、受検本番を自信をもって迎える事ができたようです。

(受検準備) 公立中高一貫校対策で実績のある塾に通いましたが、任せっきりにするのではなく、子供がきちんと理解できているかを確認し、足りない部分は、都度、一緒に取り組むなどフォローしました。九段中は他の都立中とは異なる出題傾向のため、九段中に絞

って繰り返し過去問を解き、また、スピードも求められることから、一つの検査を40分で終わらせるようにしました。適性検査は、時間内に自分の意見、考えるまとめ、表現する力が求められますので、早い段階から書く練習をするとよいと思います。(学校選択) 5年生で九段中の説明会に参加したことがきっかけです。私立を含め、色々な学校を見学しましたが、九段中が一番バランスの取れた学校でした。子供の希望が共学校とセーラー服が着れる学校ということもあり、親子の意見も一致。その後は、九段祭、体験授業など参加できるものはできるだけ参加し、九段中に入りたい！という気持ちを強めていきました。

まず、学校へ幾度か訪問し、九段で求められる生徒像を確認しました。与えられた情報から制限時間内に、物事を正確かつ簡潔に判断する処理能力と自らの考えを明確に伝えられる思考力の重要性に気付きました。そこで、学習も生活もタイマーを利用するなどして時間を区切り、集中して取り組む姿勢を目指しました。具体的には、一週間単位で生活の流れを計画しました。大好きな読書も期間やページ数を確認しながら見通しを持って読み進めるように工夫させました。子ども新聞を購読して、気になる記事については意見を交換しました。学校生活にも、前向きに励んでおりました。このように、学習面は塾にお任せし、家庭では日常生活を規則正しく過ごすことを心がけました。生活に一定のリズムが生まれたのは受験にもプラスだったのではないかと考えます。

4年生頃より家庭学習(通信教育)を主体に、まずは自ら勉強する習慣を確立。基本的な学習姿勢が構築された後、6年生から公立中高一貫校向けの学習塾へシフト。復習を重視し、理解度向上に注力。基礎学力の蓄積を経た11月頃より、本校他公立中高一貫校の過去問に着手。就中、本校の過去問は10年分を繰り返し解くことで、出題の傾向等を体得。実践力アップに加え、本番での精神面の安定を企画。

受験のための勉強ではなく、学ぶ事、色々な物事に興味関心を持ち疑いの目を養い調べる事を日常化させた。公務員試験で使用するSPIと一緒に解きゲーム感覚で勉強をした。学歴社会、終身雇用、副業禁止などの崩壊した社会で自身の特性を伸ばし、生き抜く力を持つよう指導した。

いろんな学校へ足を運び、最終的には本人が行きたい学校にしました。体験授業や文化祭、天体観望などたくさん足を運び、はじめは他の中高一貫校を志望していたのですが、九段に行きたい気持ちが徐々に大きくなり、6年秋に志望校を九段に変更しました。本人の九段に入学したい気持ちが強くなるにつれ勉強に向き合う姿勢や集中力が高まったように思います。結局のところ受験するのは親ではなく本人なので、正直私はほとんど口出しせず本人がやりたいこと(模試など)をやらせました。本人は家では誘惑(YouTubeなど)があるので、塾(自習室)や図書館で勉強した方がはかどると言っており、ほとんど家では勉強していませんでした。本人が自分でどうすれば合格できるかを考えて、実行した結果だと思います。私は本人がやりたいことがスムーズにできるようにサポートだけしました。あまり親から口出しされるのは好きではなさそうだったので、言いませんでした。

過去問を中心にくり返し問題を解くことでトレーニングすることができる様です。

九段祭や学校説明会、学校公開での生徒さんや先生方の雰囲気、充実した施設、環境のすばらしさから受検を決めました。例年の高倍率には不安を感じたため私立も視野に入れ私立高受験向けの塾に通っていました。4教科を軸として基礎、応用と身につけたことは、とても役立ったと思っています。

娘の場合は小6からの受検勉強だったので苦労しました。できれば小4くらいから塾に行った方がよいと思います。また、私立とは試験問題の傾向も異なるので早めに対策をとった方がよいと思います。様々な事象に、自分の考えを組み立てる訓練が必要と思います。

受検を終えて開口一番「私の知っている事が出た！」と嬉しそうに話してくれました。本が大好きで、博物館など色々な事に興味のある子です。受検に役立つのか？と疑問でしたが勉強だけではなく様々な事に興味を持ち体験する事の大切さを実感しました。

九段中は娘が学校見学をして一番気に入った学校だったので最後まであきらめずブレることなくコツコツと九段中対策の勉強をしてきた事が良かったと思います。5年生くらいから毎日こども新聞を読むようになり社会の動きにも興味を持って勉強していたのもデータを読み取る力や考える力など身について試験にも役立ったようです。

体調管理はもちろん、勉強のリズムを早くから慣れる必要があると思います。外部模試など取り込んで様々な角度から学習すると強みになると思います。何事もチャレンジをしてみて、その時結果が悪くとも、必ず身につくように努力をすれば失敗も本番までは沢山してよいのだと思います。勉強は大変ですが、やった分だけ成果になるのだと中学受検で学びました。過去問は傾向を把握するまでは九段以外でもやってみて欲しいと思います。語彙力をつけるのに動画やドラマが効果あるのは意外でした。

先に上の子が入学して、九段に入れてよかったと感じることが多かったので二人目も是非九段にと思いました。上の子と同じように私立向けの塾で学習させて九段の過去問は一冊全てを解くようにしました。

6年生の後期から色々な過去問を解きました。（九段中だけでなく他の都立中問題も）学校選択は本人希望優先で決めました。

娘が4年生の時、文化祭へ行き「この学校に通いたい」と強く希望しました。6年生から公立中高一貫校対策をしている塾に移り過去問題をたくさんこなしていました。一時は様々な課題が終わらず就寝が遅くなることが何度もあり体を壊しては本末転倒なのだと説明し、生活習慣を整える努力と課題をこなすスピードを上げる努力をしました。勉強内容

についてはとやかく言わず。常に今自分に必要な事は何かを意識して何のために勉強しているのか、どんな自分になりたいのかを考えられるように時々アドバイスしました。

自分達目で学校を見ると、偏差値で思い描いていた学校と雰囲気が違っていたりするので必ず見た方が良かったと思いました。塾や模試の結果ばかりにとらわれず、子供の適性に合っていると思う学校は思い切って受験させるべきだと思いました。

学校生活もとても大切なので、なるべく早く第一志望校と決め公立受検の場合は体調管理などもしっかりされたら良いと思います。(私立志望の場合は3学期始めより登校しない子がほとんどですが、公立は出席等も厳しいと聞いたので)

学校選択は公立中高一貫校をいくつか見た中から、本人が決めました。親からのアドバイスとして、どこを受けても倍率が高いので「入りやすいかも」ではなく「入りたい」学校を受けた方が良い、と伝えました。勉強は本人と塾の先生におまかせし、親は口を出さないようにしていました。

なによりも子供の希望で決める事が一番だと思います。通学の時間や距離も子供のために考える必要があると思います。受検準備は中高一貫の試験問題対策をしてくれる所にし、過去問は特にやりました。

学習塾では、九段対策をしているコースで学習する事が良いと思います。九段の教育方針はガリ勉ではないのでピアノやバレエやサッカー等、小学校時代にさまざま本人のやりたい事をさせる事で人間力を成長させ、自分に自信をつけさせる事で受検が成功すると思います。

小学校の授業や学校の行事、委員会活動など意欲的に取り組み日々の生活を大切に過ごしてきました。失敗をおそれず、何事にも興味を持ち、自らチャレンジを積み重ねてきたことが、本人の「自信」へと繋がっていったのだと思います。「自信をもって前に進む力」こそ九段合格に必要な力だったのではないのでしょうか。

受検準備としては私立対策をしていれば大丈夫でした。九段を選んだ理由は、共学(人格形成時に異性との関わりがないのは不自然)・給食(温かい食事をおなかいっぱい食べられる)大学受験への環境(中受は親の意向が大きいですが大学までの6年間で自分のやりたい事を見付け、友人たちと切磋琢磨しながら大学受験へ挑む環境があると思いました)

4年生の時、当時の担任の先生に勧められ、中高一貫校の勉強をはじめることになりました。肝心な6年生になって、周りの子たちが必死に勉強に励むなか本人はそれまで以上に遊びに出掛けるようになりなかなか家では集中して取り組むことができず、親はイライラさせられたりもしましたが、今思うとメリハリがついて良かったのかもしれません。自分

で何かを決めるにはまだまだ頼りない年齢ではありますが、よく考え本人の意思を尊重するようにしていました。

部活動や設備・交通の便の良さから3年生の夏から貴校の受検を考えていました。しかし、公立中高一貫校は一校しか受験できないので私立中受検も考え、私立中対策の塾に3年間通いました。適性検査対策は9月～1月に10日間の講座（過去問対策）に参加し1月末と2月2日に一冊半の問題集を解きました。私立中対策塾だったのでまわりのお友だちは私立を目指し、塾での内容も私立向けでしたが、そこでしっかりと勉強したことで九段中の受検も合格できたと思います。また、塾よりも学校行事を優先させスイミング、習字、エレクトーンの習い事も休まず通いきっての受検でしたが習い事を続けたことも気持ちのうえで良かったのではないかと思います。

水泳とバレエの両立をしながら5年生から塾に通い始めました。習い事を全部こなすのは厳しいながらも塾の合間にバレエに通うことで上手く気分転換をしていたようです。塾では私立対策の勉強しかしてきませんでした。自分のやりたいことがはっきりした子でその方向なら私立校として考えていませんでした。6年生の年末が近づき公立中高の併願も考えて九段の学校説明会に参加しました。九段には天文と温水プールがあり、とても設備が充実していること、自分のやりたいことが全てあるとのことでした。すでに6年生の冬でした。塾の先生にはいきなりの希望を聞いて頂き、第一志望を九段に切り替えることになりました。周りからは切り替えの時期が遅いと指摘を受け一時は落ち込んでいました。それでもクリスマスやお正月も休みなく最後まで諦めずにやれたことで自信に繋げることが出来たと思います。親の立場からすると、文武両道や自律性を方針とされていることが素晴らしい学校と感じました。

小3から通塾し、合計で3か所の塾に通いました。その時の子供の状況を見ながら勉強する内容や環境が合わなくなってきたと思ったら躊躇なく他塾へ移籍もしましたし、塾から合宿や特講を勧められてもほとんどお断りしてマイペースを貫きました。周囲に流されたり不安な気持ちに振り回されることのないよう、子共との信頼関係を一番大切にして日々を過ごし、結果として悔いのない受検をすることができました。親子といえども、相手の敬意を忘れてはいけないと思います。

公立中高一貫校を志望していたものの、中学受験の合格・不合格に関わらず、その後の進路に向けて基本的な勉強はしておいたほうがよいという考えから、私立向けの大手進学塾に4年生から通っていました。なお、小学校生活を受験勉強一辺倒にはしたくなかったため、4歳から続けている運動系の習い事は受検直前期まで続けていました。6年生の春までは、大手進学塾のカリキュラムに沿って私立向けの4科目の勉強を行い、中学受験のおおよその単元の勉強がおわる6年の7月に、適性検査の勉強に専念するため、塾の受講科目を国・算の2科目に削減し、空いた時間を適性検査の勉強に充てました。勉強の中身としては、適性検査の問題集（早稲田進学会の公立中高一貫校の過去問を素材にした問題

集)を3冊、夏休みにやりました。そのほか、塾の適性検査の問題集や模試の直しをやるとともに、適性1対策として国語の読解問題(私立向けの基本的な問題)を毎日解かせる様にしました。10月頃からは毎週1年分の過去問を解いていきました。過去問については10年分を2回繰り返しました。受検勉強のモチベーションを維持するため、九段の学校説明会や九段祭、学校公開、小学生体験授業などに積極的に参加しました。九段に入りたいという本人の強い思いが勉強の原動力になっていたようです。

6年春に参加した、公立一貫校を知る会で九段を知りました。生徒による学校紹介では、生徒さんがとてもわかりやすく、ユーモラスに九段の良さを伝えてくれました。また、個別質問でも、生徒さんが熱心に対応してくれたことに感激し、すっかり九段生に魅了されて、うちの子もこんな風になってほしい!と、九段受検を子供に勧めました。本人も九段を気に入り、ようやく納得の行く志望校が見つかった感じでした。塾は近所の個人経営塾に通っていましたが、小学校生活を充実させ、夏は習い事の合宿にも参加し、受検で疲弊しすぎない生活を心がけました。秋には他塾の九段対策コースにも参加しました。正月特訓も参加させようかどうか迷いましたが、知らないメンバーばかりで終日過ごすのもキツイかなと思い、参加させませんでした。模試ではいつも微妙な結果しか出ておらず、かなり難しいだろうと思っていたので、合格させていただくことができ、本当に嬉しく思っております。

新入生からのメッセージ

試験と同じ時間で過去問を解き、両親と解き直しをしたこと。問題集を、1日に何問と決めてやっていたこと。

過去問をやり、解けなかった問題は、正解をするまでやり直しをしていました。また、問題集などを解くとき、タイマーで時間を計りながら問題を解いていました。

九段だけでなく、他の中学校の過去問をといておいてよかったです。その他にも情報番組を観ていたのがよかったです。

過去問を解くだけでなく、解き直しもしっかりやることでしっかりとした解き方がわかったり、自分の間違えているところがわかるので、自分にしっかり身につきました。

私は塾のテスト結果をもとに、自分の苦手分野を何度も解きました。最後の一か月は、九段中だけでなく、他の都立中高一貫校の問題を複数回にわたって解き、どんな問題が出されても答えられるよう努力をしました。私は作文が苦手でしたが、何度も作文を書き、訓練を重ねることによって、適性1で点数がたくさん取れるようになり、本番に向けての自信が持てました。私は「苦手」を克服することが大切だと思いました。

過去問を繰り返し解くことで、傾向を少しずつつかむことが出来、中でも国語の記述ではしっかりとした根拠のもと解答出来るようになった。

私が勉強したなかで作文の書き方と苦手だった定規やコンパスなどを使った問題の簡単な解き方が、やっていてよかったと思ったことです。

自習などで交通機関や社会的問題、作文のまとめ方を徹底的にやっておいてよかったと思いました。

四谷大塚の時事問題について書かれている本を読んだりその中の問題を解いた。テレビでやっているニュースを見て最近の出来事について知った。九段の過去問を解いた。

「百発百中」という塾でもらえる文の読解問題、短めの文なのがほとんどすきま時間にできた。復習ノート。間違いを簡単に見直せる。さらに、次に何に気を付けるかを確認できる。受験日直前は、ひたすら過去問を解いていた。

四教科の基礎の勉強や、作文の書き方の練習。塾での九段中対策講座で過去問を解いて先生の解説を聞いた。

身の周りの本や図鑑をたくさん読むこと。

公立受検ではなく、入ってから四教科のために、普通の受験コースの方がためにはなると思います。

文章を書くのが始めは苦手意識があったので、3年生位から作文通信教育を行った。書くことに対してかまえずに作文練習に取り組むことができた。

過去問（10年分）

九段中学校の過去問を13年分やり、私が苦手だった文章を書く問題の対策をしたことです。その対策は、基本的な。や、のことから文章で例文を書く時の材料となるものを考えていったことです。

基礎知識の勉強、復習。苦手な作文を書けるようにするための練習。短時間で毎日勉強を持続（継続）するという勉強法。

過去問を3周する（6年分）

塾に行った。

過去問（過年度分全て）

九段中を受けるにあたって、過去問をたくさんやり、試験の傾向をつかみました。また塾では作文を書き、家ではたくさん本を読みました。本を読むと自然と文章の構成を考えることができ、やっていてよかったと思いました。また、試験当日は少し緊張しましたが本を読み、少し気をそらすことによりおちついて試験にのぞむことができました。当日の朝は早く起きて暖かい物をたべることによってもうろうとしていた意識をさますことができました。

小学生新聞で一週間のニュースを読んで、内容をまとめ自分の意見を述べる。

過去問などを解くこと。合格できると思って勉強した。

過去問を解くこと。

私が九段を目指したのは6年生になってからで勉強は主に適性検査型の問題集や、過去問などをやりました。その中で一番良かったと思うのは、過去問を20年分くらいやって、その問題で間違えたところを繰り返し解くことです。

この学校だけではなく、適性検査は考える力が求められるため、新聞の時事をノートにまとめそこから自分の考えを書くという方法を五年生から続けてきました。すると、問題の重要なことを無駄なく書け全体の自分の考えをまとめやすくなりました。

本を読むことや、記述を書くとき、最後まであきらめずねばりづよく書く練習。

作文の正しい書き方の勉強。テストに使う時間配分の勉強。算数の問題の性質や、その問題特有の解き方の勉強。

公立用の模試を受けて時間配分に慣れておくこと。食事のバランスに気をつけて体調管理をすること。問題の意味を理解するために漢字、慣用句、ことわざを理解し覚えること。

当日緊張しないように模試を受ける。

九段中の過去問を何度も繰り返してやったことと、コンパスを使った問題をたくさん解いたこと。

塾で習った知識を実際に問題を解いて確実に使うことが出来るかを確認したり、問題の間違えた所は、次は正解できるように復習したりする勉強方法が良かった。

まず、九段中等教育学校の過去問を3周し、読解や作文では、このような問題が出るのかなと自分で予想したり240字から300字作文をたくさん練習したりしました。理系も全体的に練習し、特に、2年前から6年前くらいまでを気にしてやりました。また、計算がなるべく早くなるように、ドリルを買って一通り解きました。

九段の過去問3年分を2回繰り返した。私立の記述対策が役に立った。都立の対策としてブンブンどりむをやった。11時には寝るようにしてた。当日オロナミンCを飲んで元気を出した。

九段対策を行っている塾に通いいろいろな問題をとにかく解いてみたことが良かったです。また、過去問の10年分を、すべて3回以上やるなど、過去の出題傾向を知り、自分が受ける問題を予測し、勉強したことも良かったと思います。

もともと得意だった記述を一年間で磨き上げ、他の教科も、どんな問題でも対応できる応用力を、ひたすら勉強することで身につけたこと。また、幼い頃から勉強したので、その習慣も役に立ちました。最後に、勉強に行き詰った時には、好きな科目の教科書をながめるのもいいと思います。

模試を受け、本番の様子に慣れたり、家でも過去問題集を本番に見立てて行ったりして受検当日にいつもと同じように問題に解答出来るように備えたことが良かったと思う。

塾でやる過去問だけでなく、家でも過去問を全体を通してやることによって（3，4年分）きちんとした時間配分ができるようになり、良いと思った。

作文の練習

塾（栄光ゼミナール） 九段の過去問を解く。

過去問。九段中学校の試験にどのような問題が出題されるかを知るため、2014年～19年までの過去問を3回解きました。そして、毎年出題される作文対策のために今まで自分の頑張ったことを書き出し各項目に対し200字作文を作成しました。また時事問題のため新聞を毎日読み要点をまとめました。

過去問をやりました。

九段には作文があるので、国語を重点的に頑張りました。

九段の受検勉強をあまりしていなかったけど、国算理社をきちんとやっていた良かったと思います。

私がやっていたよかったと思ったものは「新聞を切り抜き、要点をまとめる」ということです。なぜなら新聞を読むことで読解力が身につく、文章をまとめることが上手くなると思うからです。

ニュースをほぼ毎日、受検前日あたりまで見ていた。大原予備校という塾のそっくりテストを受けた。直しがある作文は、一週間のうちに直して提出していた。塾の九段特訓と、私立、国立中向け教室を、九段特訓は作文の注意や解き方の説明方法を、私立、国立の方では算数、理科、社会の難しい問題をやっていた。

過去問10年分を3回以上繰り返し行った。九段以外の中高一貫校の過去問や私立の訂正型の問題を解くようにした。朝日小学生新聞を読んだり、NHKのニュースを見たりした。

空き時間に本を読む感覚で過去問を読解したことで、すきまの時間をうめたこと。

Z会の公立中高一貫校向けのカリキュラムはとても良かった。

私立の受検勉強をして、知識を増やしました。九段を受けると決めてからは、過去問を

やり始めました。また、作文の対策として、語い力を増やすために本を読みました。

私は小学校1年生から朝日小学生新聞を読んでいました。その中で九段の適性検査問題に出題された「ごみだしカレンダー」や「渋滞の出来方」の問題は新聞で読んだことがありました。また、私は読書が好きだったので、新聞・本を読んでいて読むスピードも速くなったと思います。だから、私は”新聞・本”を読むことが九段を受験するにあたって「やっていたよかった!」と思います。

受検当日など、試験のときは、問題文の条件の見落としがないように、線を引いたり、丸をつけたりする。そして、頭の中だけで条件を整理しようとすると、混乱するので、紙にかいて手を動かすことが大事。

読売子供新聞の時事に関する語句の説明がかかれたページを切り抜き、ノートに毎週はっていき、時間がある時に何度も読み返した。塾の九段対策の講座で、予想問題や過去問を解いたこと。普段から読書をし、適性検査1の文章や問題文を読むスピードをあげたこと。

九段の過去問をひたすら解くことが一番問題に慣れるために必要な事だと思います。また、私は作文を書くのが苦手なので二百字程度の要約や体験を踏まえた自分の考えを一日一回以上書くようにしました。自分の集中力が続くかどうか心配な人は一度区切りがついたら計算や漢字など自分の好きな勉強をすることをおすすめします。ただし、そちらばかりに熱中して受検勉強をおろそかにしないようにしましょう。皆さん合格を目指して頑張ってください。

方法：自分の無理のない範囲で、でもダラダラにならないようにした。先の事ばかり考えず、今のことにきちんと向き合うようにした。小さな目標を書き出し一つずつ達成していった。絶対数勉強した。内容：簡易な問題を速く正確に解くようにした。問題の難しさを簡易に数値化し解く順番やかける時間をきめる練習をした。文を簡潔に書けるように要約のテキストをたくさんやった。

過去問題をくり返し解いたこと。毎日、朝起きたら15分から20分くらい好きな本でもいいので読書したこと。間違えた問題はわすれないようにその日のうちに復習するようにしたこと。休み時間をしっかりとるようにしたこと。

分からない問をわからないままにえず、塾へ行き先生に質問しました。最後の模試はD判定だったけれど最後まであきらめずに勉強したことが良かったと思います。

満点が取れるまで過去問をやった（特に作文）受検前の最後の1，2週間は塾の自学室に通いわからない所は先生に迷わず聞いた。また。「同じ九段を受検する他の人に負けない

ぞ」という思いで学習に取り組んだ。当日は、次の問題を間違えたらだめだ。自分なら必ずできると思うことで自信をつけた。

国語の文章問題をやっていてよかったと思いました。なぜかという、九段中は適性検査型の試験で文章を書く力が大切です。なので国語の文章問題をやることで文章の構成や接続語の使い方を高めることができ、役に立ちました。

塾には通わず、小学1年生から続けている通信教育を中心に学習しました。過去問を何度も解き、親に丸つけをしてもらおうと、必ず「過去問ノート」を作りました。「過去問ノート」にはなぜ間違ったのか、次に間違えないようにするにはどうすれば良いのかをくわしく書き込みました。また、新聞社の時事問題集に取り組み、時事問題の対策をしました。この問題集に取り組んだことは受検にとっても役立ったと思います。習い事は最後まで続け、朝6時に起き、夜9時半までには寝る規則正しい生活を送ることを大切にしました。「絶対に九段に受かってやる」という強い気持ちがあれば必ず合格できます。自分を信じてがんばってください。

過去問を時間内に解き、解いた後は塾の先生と確認した。記述の問題は先生のOKが出るまで何回も解き直した。算数分野は私立の少し難しい問題も解いた。また、普段から本を読むことが好きだったので、適1の文章を読むことが苦ではなく、スラスラと読むことができた。そして、本番中でも「絶対に九段に入るんだ」という強い気持ちであきらめずに頑張った。

難易度が比較的低い問題で間違えることがないように適性検査1にあたる国語のような科目では少ない記述の問題や記号を選択する問題をたくさん解いて解説を見たり聞いたりして本番にのぞみました。また適性検査2, 3にあたる算数、理科、社会のような科目では少ない記述、記号選択問題、割合の計算を特に集中して取り組んで、本番にいきなり「合格」をつかみ取ることができました。

1日1枚、新聞を使い、新聞の内容の中で重要な情報や伝えたい事などをまとめて、作文用紙に書き、字数を制限して保護者に採点をしてもらい反省点や自分が良くしてしまうミス（誤字、脱字など）をノートにかいて、自分用の欠点ノートを作り、テストや適性検査の前に見直すこと。

テーマに沿った体験談や具体例を140字以内でまとめるプリントを毎日続けることや九段中の過去問題を毎日1年分以上解くこと、3日間にするごととする時間を明確にしてスケジュールを立てることです。

いろいろな学校の過去問をやり、どんな問題が出ても対応できるようにしたことが力になったと思う。

塾の勉強が終わった後、家に帰ってそのまま過ごすのではなく数時間塾にのこって自習をすることで、復習や新たな発見をできた。

「日々の計算」で毎日欠かさず10問くらい計算問題を解いたこと。適性1対策として新聞の社説を読み筆者が何を述べたいか、そして自分はどうか考えたかを短くまとめる練習をしたこと。そして何よりスピードをつけるため過去問を解く時は40分以内で終えるよう心がけた。これを徹底したことで本番でも見直しする余裕が生まれた。

私が「やっていてよかった」と思うものを紹介します。6年生になった頃、長い物語をたくさん読みました。ハリー・ポッターとファンタスティックビーストのシリーズ、斉藤洋さんの白狐魔記やアーサー王シリーズなどです。どれもすごく面白く何度も読み返しました。そこから試験問題の長文も読めるようになりました。また、登場人物の気持ち、きっかけ、行動を意識したり、書くときも指示語、接続詞、対比に気をつけるようにしました。

1日7時間の睡眠を心がけた。登校までに1時間半の勉強をした。主に作文の練習や九段の過去問題を解いた。私立の問題なども解き、様々な問題に対応できるようにした。

色々な学校の過去問に取り組んだことと苦手な読解のテキストを行ったことです。そうすることで、入試当日では、見たことのあるような問題があったり、作文に時間をまわすことができました。また、毎日取り組んだことは、塾でその日に習ったことや過去問の復習ノートをつくり、次には絶対に出来るようにしたことです。

九段中の過去問をたくさん解き、どのような特徴の問題がどのような傾向で出題されるのかを予想しながら勉強した。

過去問の適性検査1を何回もやって予め書く内容を把握したこと。過去問を何年度分も繰り返し解いて傾向をつかんだ。

過去問を解き直すことで、特に作文を練習しました。作文は180字から220字が多いけど、400字以内の作文も書き、とにかく作文に慣れるようにしました。自分にあった塾を選ぶことも大切だったと思いました。時間ではなく、量で目安を決めることが良いと感じました。習い事との両立は、かなり難しかったです。

本番で役に立ったと思うのは時間配分の練習でした。適性検査1で時間がいつも足りなくなっていたのですが時間配分の練習をくり返し行って目安を知っていたので最後の作文を書き上げることができました。また文字数が決まっているので、少ない言葉で意味が伝わるようにたくさん練習をしました。そのために、興味を持った本はなるべく読んでみる

事を心掛けました。時々運動をして、息抜きする事も大切だと思います。良い結果が出て満足せずに努力することを心掛けて勉強してきたことが本番の自信につながりいつも通り冷静に実力を発揮できたと思います。

九段中の適1は他校に比べて問題数が多いです。そのため、時間内にすばやく読み解くことが必要です。ぼくは、元々国語が得意ではないので、とても大きな試練でした。毎日、苦手な読解を解したり、過去問10年分をくり返し解いてきました。そのため、点数も上がるようになりました。塾の先生の話をもemorしておいてよかったと思いました。先生は自分の間違いを指摘してくれるので、メモすることで同じ間違いをすることがなくなりました。また、試験当日にも確認できたのでとても心強かったです。

漢字が好きだったので、1年生の頃から覚えられるようにがんばりました。

区立なのでたくさんの文がでてきて読むのが難しかったりするので読解力をつけておいた方が良くと思います。また、長文を読む練習をすると良くと思います。基本のことをかためておくとも問題を解くのがとても楽だと思います。

記述問題の問題集を解くことと、公立中高一貫校の模試を受けたことです。記述問題の問題集を解くことは、自分の考えや解き方をどのように書いたら分かりやすくなるかを考えるのに役立ちました。公立中高一貫校の模試を受けたことは時間配分を決めたり、本番の緊張感を感じたりすることができ、あせることなく本番にのぞむことに役立ちました。

塾での過去問演習と記述対策。

都立中高一貫教育校の適性検査の過去問を5年分程解いたことです。また、乗り物に関する問題や比例、ルールに従って解く問題を対策したことも役に立ったと思います。最後は塾の先生や親、兄弟など、支えてくれた人に感謝を伝えてから問題に向かってください。

楽しく勉強をすること。「やったー 1ページ解けた！」でも「前回間違えた問題が解けた」でも何でも良いので楽しく勉強をすること。これが結果がどうであれ1番後悔が少ないと思う。私はこの考え方がとても役に立った。

過去問と試験の時に作文にかかる時間をスムーズにするために作文の練習をしていた。

苦手な教科とともに得意な教科を優先に勉強する方法

短い言葉でまとめる作文を書いていたので簡潔にまとめられるようになったことです。

私は元々水溶液の問題（算数）や過不足算などが苦手でした。でも、塾でちゃんと勉強

して分かるようになり、水溶液等の問題が出てきてよかったです。

九段中等教育学校の過去問を解いたり、中学準備のワークを解いたり、特に過去問の方は平成30年度～平成25年度ぐらいまでの問題をひとつも見落とさずに分からない問題は教えてもらったり、母に答えを見て解き方を覚えたり復習をしっかりと受検の日まで忘れないようにしていました。

色々な事に疑問をもち本を読んだり博物館や美術館に行ったりして様々な事を知ること。

朝の読書習慣を身に付けたこと。塾に通っていたこと。

過去問や軽い計算問題、漢字練習をくり返し解いたことです。特に過去問を解くことで九段はどんなタイプの問題なのかを知ることができます。また、解き直しまできちんとすることで、分からない所が分かるようになりました。計算問題と漢字練習は単純なミスをなくすために何枚もやりました。模試も定期的に受け、本番の雰囲気になれるようにしました。小学生新聞にも目を通したり、ニュースを見るなどして、最近の話題などに着目し、くわしく調べました。

e n a の九段の特訓に参加し、適性検査のやり方を分かった。

朝日中高生新聞を読み、世の中の出来事を学校の自主学習ノートにまとめた。また新聞の天声人語に取り組んだ。

父と家で作文の練習をしたこと。

問題を先に読んでから文章を読んで解いたこと。国語の問題などで「こと」や「から」などきかれていることにあった語句を使えているか確かめたこと。時間をはかって過去問を解いたこと。

毎日短くても必ず、勉強する時間を作ることです。また、過去問で問題を練習したことです。

過去問の解き直し、本をたくさん読む。

私は誤字脱字が多く文章が苦手だったため、自分がその日受けた授業で習った事や問題の解説を自分の言葉で文章にしてノートに書いたり九段中等教育学校の入試問題を解き、解き終えてしまったら九段中等教育学校の入試問題に似た私立の入試問題も解いたり何回もくり返し解いたりしました。すると、本番も文章に苦戦したりする事なく解けたため、自分の苦手な事を直せるような勉強法や入試問題に慣れた方法が良いと思います。

いろいろな外部団体の模試テストを受けてテストに慣れたことが良かったのではないかと思います。

私は作文が苦手だったので、自分で決めたテーマに合わせて作文を書き、それを塾の先生などに採点してもらおうということをくり返しやりました。すると、形式に慣れることができたり、内容をすぐ思いうかべたりすることができるようになりました。

過去問をとく

日記として毎日作文をつけていたこと。毎日作文を書くことで机へ向かうことの習慣をつけることができました。4～5年生まで、Z会の通信教育もやっており、受検に必要な知識をつけておくことができました。3～5年生まで英語を勉強していて、九段中に英語を生かせるといいなと思えたこと。

九段中等教育学校の過去問

過去問をやったこと。時間をはかって解いたこと。本をたくさん読んだこと。

手帳に〇時～〇時までに〇〇〇をやるなどと、計画を手帳に書き時間通りに勉強を進めた。苦手な分野をノートにまとめ塾での模擬試験や適性検査の直前に見直した。

塾の授業ノートをもとに復習用ノートを作ることで内容が頭に残りやすくなった。百マス計算を毎日続けることで計算力がつき、問題が早く解けるようになった。

私は平成27年度からの過去問をひたすら何度も解きました。そのことによって問題の傾向を知り、対策をしました。すると幅広く対策をするのではなく、その傾向に合わせた対策に集中することができました。他にも本をたくさん読み、知識を増やしたり語い力を高めたりすることができました。

受検日の1週間前から過去10年分の都立中高一貫校の過去問を重点的に解きました。苦手なところを繰り返し解き高得点を目指しました。私は「だから?」「なぜ?」と解答にバツをつけられる事が多かったので、きちんと最後まで問題の答を説明できるようにしました。また、過去問を解くことで自分が知らなかった物事を知ることができました。そういうことから、過去問を解いてよかったと思いました。

模試を受けていたので試験になれることができた。過去問やテキストを最後まであきらめずに行った。

聞かれている事を正しくとらえ、正確な返答をするための学習をすると良かった。グラフを読みとる問題はどの情報を読みとれば良いのか考えるので、文章の多い適性検査の対策になります。

理系が苦手だったため計算プリントを沢山したり友達と3. $14 \times \square$ どこまで出来るかゲームをしたり、遊びの気分で勉強しました。休みの日に九段中等教育学校に遠足気分で行くことが勉強の合間の楽しみだったのでやっていてよかったのかなと今は思います。また九段祭に行くこととかもやってよかったと思います。作文は240字のものを1日に10枚ほど色々なテーマで書くこともやっていて良かったです。

国語では文章を書く力をつけるために、様々な種類の本を読み、新聞などの文章の要約をしました。そして、漢字練習は毎日行いました。算数では基礎を固め、計算練習を行いました。理科や社会では新聞や本などから知識を取り入れました。また、過去問を解いて分からない問題は塾の先生に質問をし、間違えた問題は解き直しました。

千葉県立千葉中・東葛飾中学校の過去問

私が「これをやっていてよかった」と思った勉強方法は大きく分けて二つあります。一つ目は沢山の問題に触れ、分からない問題はあきらめずに考えるということです。それでも分からない場合は分かるまで先生に何度も何度も質問します。そして本当に理解できているか類似問題を解いたり復習したりして完璧にします。二つ目は先生が話してくれる雑学や話題やニュース、家族との話や身の周りのことなどに目を向けて疑問をもち調べて深めるということです。実際に先生の雑学と私の自由研究でやったことが九段中の入試に出題されました。

九段中の過去問を解き多く出題されている問題の比例：反比例、図形、自動車、鉄道等の乗り物に関するもの等に臨機応変に対応できるようにしました。三鷹中の適性検査1を解いて作文を書くスピードを上げるようにしました。また、知識を増やすためにNHKや視点・論点という番組等を見ていました。

過去問をくり返し解き、問題の傾向を理解して、本番と同じような問題が出たときに確実に点を取れるようにする。

九段中の過去問をたくさん解きました。最近の平成27年から平成31年までの過去問は何度も解き九段中の問題に慣れるようにしました。また、九段中の問題ではコンパスを使うため、コンパスを使う練習をし、本番でもすばやくていねいに書くことができました。

小学校の学習をおろそかにしないようにしていました。また、日ごとにやる内容を決めてメリハリをつけていました。銀本を解きました。まちがえた問題をノートにまとめまし

た。まちがえた問題をそのままにせず、毎日、勉強しつづけたのがよかった！と思っています。

毎週新聞を読んでいました。また、塾では国語の先生に記述の問題を見てもらいました。

私は九段中を受検するために塾の小4の教科書の基礎問題などを徹底的に解きました。そうすることで、少し発展的な問題になっても「これはさっきと同じようにとけばいいのか」とすぐとけるようになりました。

過去問10年分以上を3回ずつ。

過去問10年分（3～4回くりかえす）作文（200～240字程度）作図問題、資料から読み取る問題。読書などで長い文章を読むこと。これらを何度もくり返す。

私立も併願していたので私立算数をやっていたのはとても良かったです。私立算数を解くようになってから九段中の過去問の点数や理解度が格段に上がったからです。

私がやっていて良かったと思ったものは過去問をくり返し解くことです。過去問をくり返し解くことで問題の形式に慣れることができ、さらに自分はあれだけ解いたんだという自信がつき、受検日に落ち着いて解くことが出来ました。そのおかげで合格出来たのだと思います。

時事問題に興味を持ち、ニュースや新聞をよく確認したことが結果に繋がった。また、そこで生まれた疑問を深く調べたり、解決策を考えたりするように心がけた。

塾で他の公立の過去問もやったこと。

受検直前は、とにかく「過去問題集を解く！」→「解いたらすぐに復習」のくり返しでした。過去問題集を解いても、なるべく早く復習をしなければ何も身につかず、同じ間違いをしてしまうと学んだので、それを意識しながら勉強していました。また、タイマーでテスト時間の45分や、10分などの短い時間を計り、決めた時間内で集中して勉強しました。

九段中の過去問5年分を40分で何度も解き、間違えた問題は必ず復習する事や、基礎の計算や問題もしっかりとやったことです。

新聞を読む習慣がついた。日本、世界がかかえる問題についてしっかりと学習していたことでニュースの事などが分かりやすくなった。説明のしかたが上手になったような気がする。読解能力がついた。

解き直しやわからない問題の質問をすることで、力を付けることができたので、解き直し、質問をして良かったです。また九段中の過去問を解いたことで、傾向をつかめたと思うので、過去問は解いていて良かったです。

私がやっていてよかったと思った勉強の内容や方法としてまず毎朝の計算があります。計算は簡単なものでも毎朝10～20問程やれば基礎的な計算力がつきます。九段では特に基礎的な計算力を問う問題が多いので、そのような力が必要であるため、毎朝の計算は徹底した方がよいと思います。また、私は公立中高一貫校専門の塾ではなく私立中向けの塾に通っていましたが、そこでの勉強が九段の問題を解くうえでとても役に立ちました。長い記述の書き方や算数の基礎的な問題から応用的な問題もしっかりと頭の中に入っていたのでそれを使って解いていくと九段の問題はとても解きやすかったです。そして最後はやはり過去問をとにかく解いていくしかないと思います。九段の問題の特色をつかみ何回も何回も解いて対策を考えることは本当に大切です。このようなことが私の九段の受検において役立ったことです。

塾の自習室や図書館など、集中できる場所で九段の過去問を、45分間時間を計って取り組んだことが良かったです。時間を計ることで本番と似た感覚を持てました。間違えてしまった問題は、その原因を分析して、自分のミスしやすいところをノートにまとめました。また、計算問題を毎日解いたことで、ミスを減らすことができました。

過去問を何回も解いたこと。東京都以外の過去問を解いたこと。新聞記事の社説を切りぬいて、筆者の考えと、それに対する自分の考えを240字でまとめたこと。九段に行く時間がかかるので、本番、家を出る時間から逆算し、5:30ごろに起きられるように、1週間以上前から朝型にしたこと。記述が長くて分かりにくくならないように、文章を短く切る練習を前日までやったこと。

記述対策の本を買って、原稿用紙に書いて練習した。九段の過去問を解いた。書ききれなかった作文やよくない作文は、もう一度書き直し、添削した。学校の教科書の『発展』というコラムを読んだ。

普段から本を読み、常に持ち歩き、低学年のころは図書館、中高学年の頃は本屋によくこもって本を読んでいた。ということや、毎朝学校に行くまでの間、勉強をすることもあります。一番力になったのは塾です。平日はもちろん土曜日にも授業があり、九段の過去に出た問題等も何度もくり返し、日曜日にも毎週テストがあり、毎回欠かさず復習をして一週間を締めくくっていました。他にも、学校でいう「〇〇休み」等の長期休みには、毎日朝から夕方まで勉強する「〇期講習」があり、また、そのような休みには「強化合宿」というものもあり、必要に応じてどちらかに参加して勉強漬けになっているようにして休みを過ごしたことが大きかったと思います。強制的にでも勉強をすれば、少しずつでも成

績はあがり実際に自分の状態が良くなっていっていることを実感することでやる気が出るので、このような方法でも勉強できたことは良かったと思います。

作文の練習をすること。過去問を解いて、問題の形式に慣れること。適性検査の問題を解く。社会問題に興味を持って学ぶ。

九段中の過去問題集などで作文を何度も書き、塾の先生に採点してもらって書き直すこと。

私は、「毎日小学生新聞」を読んでいた。社会で今何が起きているのかなどを知ることができました。また「江戸のくらし」という本を読んでいたのも役に立ちました。勉強だけでなく、遊びや運動にも力を入れて取り組みました。出かけた時もまわりをよく見て、情報を頭に入れています。とにかく、好きなことを自分のペースで楽しむことが大切だと思います。

私は貴校を受検するために過去問を解いていました。貴校の過去問だけでなく、全国の公立中高一貫校の過去問も解きました。過去問を解くことで、その学校の問題の特色が分かったり、自分の苦手な分野を見つけられたりしました。もう一つ、私が貴校を受検するために取り組んだのは、ニュースを見ることです。貴校の問題は、時事問題をもとにしている問題も多かったので、ニュースをよく見るようにしていました。

理科と社会のコアプラスという基礎の部分をかためる教材を使っていて、基礎の問題のときは、コアプラスで覚えた知識を思い出して解答することができ、応用の問題では一つの知識だけでなく、様々なコアプラスで覚えた知識を使い、問題を解く鍵になりました。さらに、塾でコアプラスのテストも毎回やっていて、一度やった問題と同じような問題が忘れかけてきたころにまたテストで出るようになっていたので何度もくり返し解く事で、自分が本当にできない分野などを見つけ、できない部分を減らしていくことができました。なので、私は理科社会コアプラスをやっていてよかったと思いました。

塾の先生の何げない雑談が、実際に問題として出題されました。そのため、塾の先生だけでなく日頃からしっかり人の話を聞き、重要な部分はメモを取ることが大切だと思います。また、新聞を読み時事問題について学んだり、長い文章を読むことに慣れたりしておくと思います。

九段中の過去問を何回も解き、まちがえた問題があったら、まちがえてしまった理由を突きとめ、答えが合うまで書き直しをしたこと。200字前後の字数の作文をたくさん書いたこと。他の都立中の過去問もたくさん解き、どのような問題でも対応できるようにしたこと。50分勉強し、10分休憩を何セットもやったこと。

私は公立中高一貫校や都立高、私立中などの過去問をたくさん解き復習して、わからなかった問題は先生に教えてもらっていました。過去問を解くことにより、どのような問題が出て柔軟に対応できると思います。その他にも、規則正しい生活をすることや毎日「今日やること」を決め、効率良く九段中への対策をすることなどは「やっていてよかった！」と思っています。

九段以外の学校も沢山解いたことがやっていたよかったと思ったことです。このことにより、色々な問題にふれられ問題の知識が増えたり九段への応用ができたりしました。常識を身に付けるために、時事問題が書いてある本や記事を沢山読みました。

私は、この学校に入るために、1回過去問を解き、その答えで足りなかった点、もう少し改善できる点を徹底的に勉強しました。私の場合、内容が伝わりにくい、漢字ミスが多い点や計算ミスなど、少し見直したらわかるミスに気がついたり。短時間でなるべく多く話の話題を引きだせるように、過去問の作文問題を特訓しました。これが入試問題での自信につながったのかもしれませんが。

[illegible]



千代田区立九段中等教育学校

所在地 〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目2番1号
電 話 03 (3263) 7190
ファクシ 03 (3288) 3499